

## 家庭基盤の充実についての提唱

— 衆議院予算委員会における答弁の一部 —

(質問者 野呂恭一委員(自由民主党) 昭和五十四年二月二日)

常識的に申しまして、家庭はわれわれの生活にとりましてかけがえのないオアシスだと思えます。ここには打算とか嫉妬とかいうようなものはございません。善意と献身があるわけでございまして、ここで初めてわれわれは安らぎが得られるわけでございます。人生にとって非常に大事なオアシスだと思えます。また、社会にとりましても、ここがしっかりしていないと、いい社会ができないことは当然でございまして、国にとりましても、家庭がしっかりしていなくては何事もできないし、国の基礎は固まらないものと思っております。

しかし、幸いにいたしましたして、わが国におきましては、その家庭自体がそのことについて自覚的に対応していただいておりますから、政府の政策が必ずしも十分でなくても、今日家庭の社会的な役割り、国家的な役割りというものは果たしてきてくれたと思っております。

しかし、自主的な国民自体の貢献にまつだけでなく、公的な施策の面から、あるいは住宅において、

あるいは老人対策あるいは母子対策、あるいは生活環境対策、あるいは教育政策その他万般の施策におきまして、大事な家庭基盤がいよいよしつかりしたものになるように政府の政策は持っていかなければならぬという意味で、私は、家庭基盤の充実という政策理念を提唱したわけでございます。現在まで行われているいろいろな施策をもう一度見直して、それに力をつけていく、方向を定めていく、政策の材質をよく再検討して、家庭基盤の充実に役立つようなものにしていきたいものだという念願を込めて、提唱いたしましたわけでございます。